

## 「2023年度ベトナム国家大学ハノイ校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部1年 高橋 一成

①まず、私はこれまで海外に出たことがなく、海外に対する漠然とした興味から京大の留学プログラムの説明会に参加し、このプログラムに参加することを決めた。パスポートの取得をはじめ、保険への加入、空港での手続きなど、すべてが初めての経験で、現地でのプログラム以前に「海外に行く」という大きな壁を越えられたことが自分にとって大きな成長だったと思う。この壁を超えない限り、留学はもちろん旅行でも海外という選択肢が入ってこないだろう。次に、留学だからこそ得られた経験としては、やはり現地の学生との交流である。現地の学生は非常に気さくに話しかけてくれ、共同発表にも積極的に取り組んでくれただけでなく、日本語能力が非常に高かったためとても助けられた。しかし言語に不自由がなくても文化的な背景の違いの影響はやはり大きく、考え方などの違いを感じた。例えばベトナムでいうホーチミンさんにあたる人物は日本にはいない。社会主義の国ということもあり、国民のホーチミンさんに対する尊敬の念が（教育の成果からか）非常に強いことを、特に生徒との会話を通じて実感した。呼び捨てにすることははばかられた。次の留学に向けての興味は大きくなっている。また、観光地での会話は英語でせざるを得なかったのだが、自分の英語力の乏しさに気づかされた。京大には留学生が多くおり、その気になれば実践的な英語の練習ができる環境である。もっと英語力を向上させない限り、長期の滞在は難しくなってしまうと感じ、英語学習の意欲が増した。

②ベトナムでの生活は、物価の安さや食べ物のおいしさ、また交通状況や衛生環境の悪さが心に残っている。トイレの便座が汚いことは2週間の最大の悩みだった。海外で生活するということの良さや辛さを2週間で様々な味わえたことは大きな収穫となった。ベトナムの日本に対する姿勢を知ることができた。学生が良くしてくれたのはもちろん、観光地などで日本出身ということを伝えると笑顔で対応してくれる人が多かった。日本とベトナムの友好的な関係を肌で感じることもできた。

③単位認定の関係で仕方がないのは分かるが、講義の時間が長く現地の学生との交流の時間が削られてしまっている感じがした。日本でも受けられるような講義がいくつかあり、2週間という短い時間を最大限有効活用できるようなプログラムにしてほしいと感じた。